

氏名	高 取 優 二
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第 4365 号
学位授与の日付	平成23年6月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)

学位論文題目 Icodextrin Increases Technique Survival Rate in Peritoneal Dialysis Patients with Diabetic Nephropathy by Improving Body Fluid Management: A Randomized Controlled Trial
(糖尿病性腎症腹膜透析患者においてイコデキストリン透析液は体液管理を改善することにより治療継続率を増加させる：無作為比較対照試験)

論文審査委員 教授 土居 弘幸 教授 公文 裕巳 准教授 溝渕 知司

学位論文内容の要旨

糖尿病性腎症末期腎不全患者で初めての腎代替療法として腹膜透析に導入された患者を対象とした無作為比較対照試験で、岡山大学病院と22の関連病院で行われた。41例の患者を Glucose 群 20例 (ブドウ糖透析液のみ使用)、Icodextrin 群 21例 (Icodextrin 透析液とブドウ糖液併用) に振り分け、2年間の観察を行った。

治療継続率は24ヶ月の観察期間で Ico 群 71.4%、Glu 群 45.0%であり、Ico 群が有意に優れていた (log-rank test, $p=0.0365$)。離脱理由として Ico 群 5例中3例、Glu 群 11例中9例が不十分な除水による体液過剰であった。

Ico 群は除水量、体液管理 (体重、血圧、心胸比、ANP) で Glu 群より優れていた。尿量、残腎クレアチンクリアランスは Ico 群の方が早期に低下したが、2年間の観察期間終了時では有意差を認めなかった。

糖質代謝においては早期に Ico 群が有意に優れていたが、観察期間終了時では有意差を認めなかった。脂質代謝においては観察期間中2群間で有意差を認めなかった。

本研究では糖尿病性腎症腹膜透析患者において Icodextrin 透析液は体液管理を改善することにより治療継続率を増加させ、糖尿病性腎症腹膜透析患者の臨床上有用であることを示した。

論文審査結果の要旨

本研究は、腎代替療法として、腹膜透析を導入するに至った糖尿病性腎症末期腎不全患者を対象とし、透析液の違いによる効果評価を RCT によって行った研究である。

23の病院から41例の患者を無作為抽出したが、アウトカムを評価する尺度に難があること、厳密な RCT ではない等の限界はあるが、先行研究としても例がなく、研究・分析能力は、博士課程で修了すべき領域に十分に達していると判断され、今後の研究の発展性が期待できる。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。